

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:令和3年2月17日

事業所名 ワンセルフとみおか

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	33%	50%	17%	体の大きな子、多動の子がいる際は多機能室などを利用している。 14人は多すぎだと思うが、今は適正だと思う。 小・中・高校生が分かれていると良い
	2	職員の配置数は適切である	50%	33%	17%	急な休み、長期休みが多く他のスタッフが大変だと思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	66%	17%	17%	会談が段差がある為、車椅子利用ができない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%	0%	意識している職員と意識していない職員がいる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%	0%	アンケートの結果を把握し、支援に生かしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%	0%	知らないで答えられない。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	83%	17%	知らないで答えられない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	会部や社内で研修を定期的に行っている。 コロナ前は研修の機会が多かった。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	0%	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	33%	50%	17%	作成中。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	0%	療育グッズを話し合いにより作成。 利用者様の成長に合わせて療育活動の内容を取り入れている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	33%	67%	0%	工夫しようとは思っているが、そこまで手が回っていない。 余裕がない。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	67%	33%	0%	長期休みは色々な体験が出来るよう予定を決めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	67%	33%	0%	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	67%	33%	0%	社員は午前中話し合い出来るが、 パートは出勤後すぐ支援に入る為話し合いがなかなか出来ない。 毎朝礼時に打合せを行っている。(2件)
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%	0%	日によって時間がない際は、翌日の朝礼時に行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83%	17%	0%	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%	0%	半年に一度、保護者から聞き取りを行い計画の見直しを行っている。
関係 機関 や保 護者 との 連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	33%	67%	0%	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	0%	参加出来ない場合は担当者に状況を伝えている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	0%	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	83%	17%	対象者なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	67%	0%	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	50%	0%	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%	0%	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	33%	67%	今は難しい時期だからないのだと思う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	66%	17%	相談員が参加。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	50%	50%	0%	連絡ノートに記入したり、送迎時に情報共有をしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	17%	83%	0%	一部の保護者へ研修実施
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%	0%	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	67%	33%	0%	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17%	50%	33%	コロナ禍もあり、実施出来ていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	0%	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83%	17%	0%	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	83%	17%	0%	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	17%	66%	コロナ禍もあり、難しい状況	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	67%	33%	0%	保護者への周知はしていない。 職場内ではスタッフがいつでも見られる場所に置いてある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	月一、避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	67%	33%	0%	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	利用者様の日々の行動を細かく確認し、本当に必要かどうかを話し合っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%	0%	アレルギーの有無は対応している。 医師の指示通りなのかは自信はない。 保護者から定期的に受診内容を確認している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	0%	起こった時作成はしているが、 それ以外の事例は話したりしていないと思う。 全スタッフが確認している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。